



香南市 総合防災訓練

7ヶ月(919)と覚えてね

9月1日(日)午前9時

市内全域を対象にした香南市総合防災訓練を実施します。

必ずやってくる南海地震に対し、家庭や地域で災害時の対応について話し合い、いざという時に、パニックにならずに適切な対応ができるよう、訓練に参加してください。

■問い合わせ 防災対策課 ☎ 57-8501

■市内全地区で避難訓練を実施

各地区の避難場所は別に配布するチラシに記載しています。日ごろから知っている場所だとは思いますが、避難時間や避難経路などを再確認してください。



へりによる患者・物資搬送訓練も行います

■訓練日程※雨天決行

8:55…地震発生

9:00…避難訓練開始

▼地震・津波発生サイレンの放送

▼各避難地で避難確認

9:30…避難訓練終了

▼避難訓練終了後、各自主防災組織や地区の防災訓練などがある場合には、参加してください。

12:30…訓練終了

■主会場訓練【香我美小学校】

午前10時30分から自主防災組織等による倒壊家屋からの救出訓練や人命救助訓練を行います。

また、消火訓練、けむり体験、救急救命訓練、自衛隊車両、消防車、防災グッズの展示、炊き出しの無料配布なども行います。



中山間地域の防災を考える

■問い合わせ 農林課 ☎ 57-7517

7月17日(水)より、津波浸水予想地域ではない香我美町、野市町、夜須町の地域を対象にした大規模災害に備えるためのワークショップが開催されました。

初回は昨年の津波対策ワークショップでも講演された、高知大学南海地震防災支援センターの原忠准教授から、津波の来ない地域で行うべき取り組みなどを説明がありました。

次回より中山間地域の防災対策を話し合い、危険箇所の洗い出しや、要援護者の把握などを行います。今年度中に3回程度ワークショップを開催し、地域ごとの防災マップの作成にも取り組んでいきます。



大
災害の危険性
小

特別警報

重大な災害が発生するおそれ著しく大きいときに発表

警報

重大な災害が発生するおそれがあるときに発表

注意報

災害が発生するおそれがあるときに発表

「特別警報」が発表されたら、避難準備を始めてください。

8/30(金) 特別警報が開始されます

■問い合わせ 防災対策課 ☎ 57-8501

激しい大雨や大きな津波による重大な災害の危険性を知らせるために、新たに「特別警報」が作られました。

特別警報のレベルは「東日本大震災」「伊勢湾台風の高潮」、紀伊半島に甚大な被害をもたらした「平成23年台風第12号の豪雨」などが該当します。

特別警報が出た場合は、非常に危険ですので、屋外の状況や、避難指示・勧告などに留意して、直ちに命を守るための行動をとってください。

また、大雨等の被害を防ぐには、時間を追って発表される注意報、警報やその他の気象情報を活用して、早め早めの行動をとってください。

熱中症から身を守る

問い合わせ 市消防本部 ☎ 55-4141

熱中症とは

「熱に中(あた)る」ことによって発生する病気で、暑熱環境で発生する健康障害のことです。体温調節機能が未発達な「幼児・小児」や、体温調節機能が衰えてくる「65歳以上の高齢者」は熱中症になるリスクが高いとされています。熱中症は死に至る恐れのある病態ですが、適切な予防法を知っていれば防ぐことができます。

周りの人が注意してあげてください



高齢者

高齢者は若年者より体内水分が少なくなるため脱水症状に陥りやすくなっています。よりこまめに水分を摂りましょう。寝たきりの高齢者がいる場合は特に注意してあげてください。



子ども

晴天時は照り返しなどにより地面に近いほど気温が高くなります。このため大人が暑ければ、子どもは更に高温な環境にいます。ベビーカーの乳幼児にも注意が必要です。

32℃

35℃

暑いだけじゃなくて危険なんです！



熱中症にならないために

①体調の管理

「睡眠不足」「過労」「二日酔い」「風邪などの病気」で体力がおちている時に、暑い外を歩き回ったり運動をしないこと。

②環境の調整

「風通しの良い」「吸湿性のある」服装に。外出時には帽子や日傘を準備し、時折涼しい木陰やクーラーのある室内で休憩をとる。

③水分補給と塩分補給

冷たい水をこまめに飲む。大量に汗をかくことは水分だけでなく塩分も同時に失われています。塩分が不足することで「熱けいれん」を起こす可能性があります。適した飲み物はスポーツドリンク。ただし、摂取カロリーが気になる方は少し薄めて飲むようにしてください。

経口補水液やスポーツドリンクをこまめに持ち歩き、水分を摂りましょう！



車内は特に危険!



エアコンを切って1時間経つと、車内温度は50℃を軽く超えます。「ちょっとした間だから大丈夫だろう」と、お子さんやペットを車内に残したまま車を離れることは、絶対にしないでください。